



## 秋の火災予防運動

AUTUMN FIRE PREVENTION CAMPAIGN

11/9 ▶ 11/15

目で確認  
声出し確認  
火の用心

令和5年度東京消防庁火災予防総務課  
作者 岩崎 公昭 東京都消防局 消防士在学

東京消防庁



11月9日(土)～11月15日(金)

秋の火災予防運動実施中

地震に備えよう

**わが家の地震に対する備えを確認しましょう！**

近年発生した地震でけがをした原因を調べると、約3割から5割が家具の転倒・落下・移動によるものでした。

家具類の転倒・落下により、直接下敷きになってけがをする事例や、転倒・落下した家具類につまずいて転んだり、割れたガラスや食器などを踏んでけがをする事例がありました。

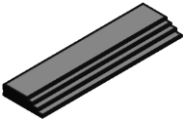






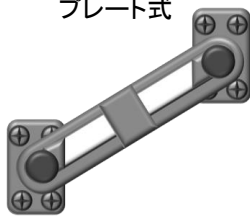
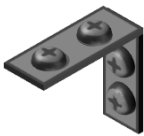

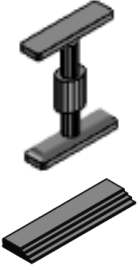
また、けがだけではなく家具がストーブの上に転倒したことによる火災の発生や、通路等に倒れたことによる避難障害になるなど、二次的な被害も引き起こします。震度5強以上の強い地震では、テレビ、電子レンジなどの家電製品が落下したり、固定していない本棚やタンス、食器棚などの大きな家具が倒れることがあります。

けがの防止や避難路の確保のためには、家具類の転倒・落下防止対策を実施することが重要です。

実施方法について、当庁ホームページに掲載する「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック」から一部を抜粋してご紹介しますので、ぜひご覧になって地震に備えていただくようお願いいたします。

## ● 地震動に対する対策器具の効果

転倒防止器具は、震度6強の揺れを再現した実験で、その効果を測定しました。

使用条件	器具の効果 ← 大 →				
単独使用	<p>小</p> <p>ストッパー式</p>  <p>マット式</p> 	<p>ポール式</p> 	<p>L字金具 (スライド式)</p>  <p>ベルト式</p>  <p>チェーン式</p> 	<p>L字金具 (上向き取付け)</p>  <p>プレート式</p> 	<p>L字金具 (下向き取付け)</p> 
組合せ使用	<p>家具と天井に十分な強度が必要</p>		<p>家具、壁面や器具に十分な強度が必要</p>		
			<p>ポール式 + マット式</p> 	<p>ポール式 + ストッパー式</p> 	

### Point

- 家具をL型金具などで壁に**直接ネジ固定する方法が最も効果が高い**。
- 家具の上部と天井の間に、ポール式やすき間家具などで家具を固定する場合は、ストッパー式や粘着マット式を併用すると効果が高い。
- ポール式の場合は、天井に下からの突き上げに耐える強度が必要で、強度がない場合は、当て板等で補強する必要がある。
- マット式やストッパー式の器具の単独使用は効果が小さい。家具の重量、奥行きなどの条件によつての違いはあるが、一般に大きな家具には適していない。

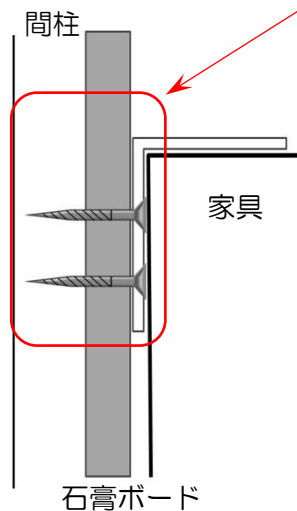
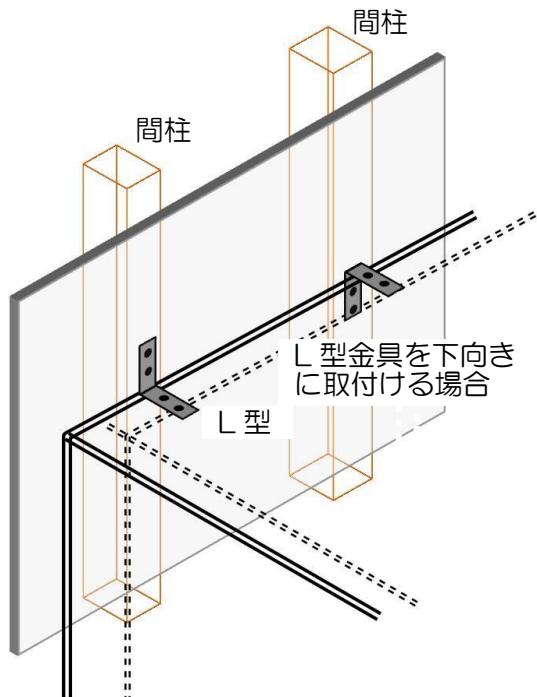
# 家庭用家具の転倒・落下・移動防止対策

## ● 壁に固定する場合

### Point

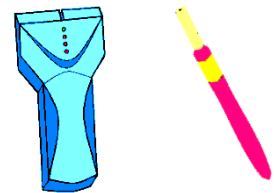
- 転倒・落下・移動防止対策の基本は、**ネジによる固定**です。その場合、家具を固定する対象は、壁下地の柱、間柱、胴縁等とします。
- 木ネジは長めのものを使用し、ネジ頭までしっかりねじ込みます。
- 付け鴨居は、強度が確認された場合、これに固定することが可能です。
- 上下2段式の家具など、やむを得ず積み重ねる場合は金具などで連結します。

### L型金具の取付け



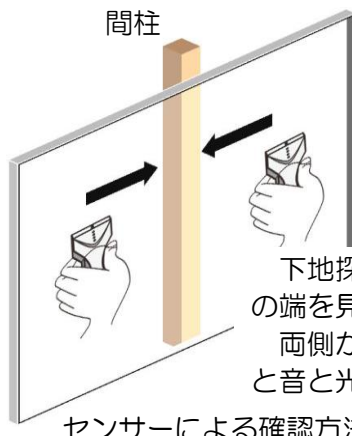
壁にL型金具を用いて固定するには、**壁の下地材**に取付けることが大切です。

下地材の位置は、下地探知用センサー等の機器、市販の専用プッシュピンといった器具、音による打診により判断できます。

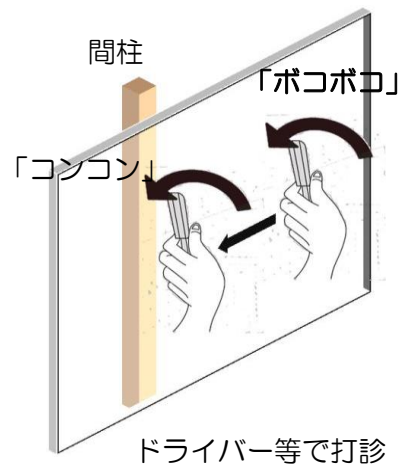


下地探知用センサー・プッシュピン

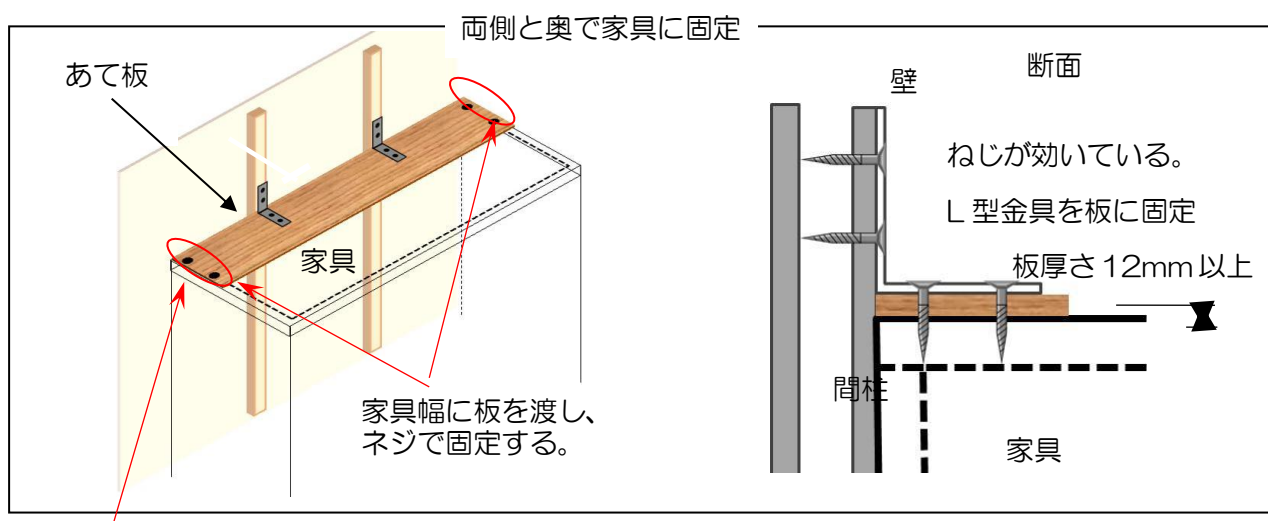
### 間柱の探し方の例



下地探知センサーは、間柱の端を見つけるものです。両側から探知し、見つけると音と光で知らせます。



## L型金具の取付け（家具の天板に強度がない場合）



家具の天板の後ろ側にしっかりとした棧の入っていないものは、**家具の幅全体に板を渡しネジ止めしてから**金具を取付けます。

金具をネジ止めする際には、長めの木ネジを使用して取付けてください。

## ● 付け鴨居に固定する場合

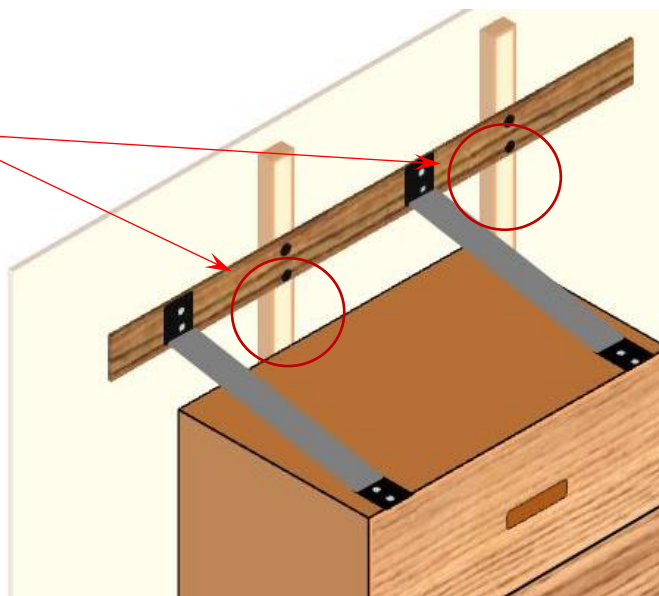
居室の壁に付け鴨居や長押、横木などがある場合は、ベルト式やチェーン式などの器具を使って固定する方法があります。

従来の木造住宅は、真壁構造が多く、付け鴨居は構造部材の一つで強度がありますが、最近の木造住宅は大壁構造となっており、付け鴨居は石膏ボードに接着されているものが増えてきています。

Point

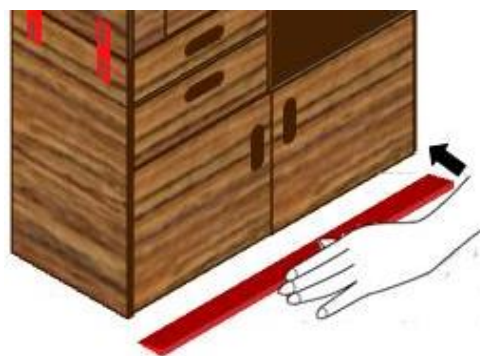
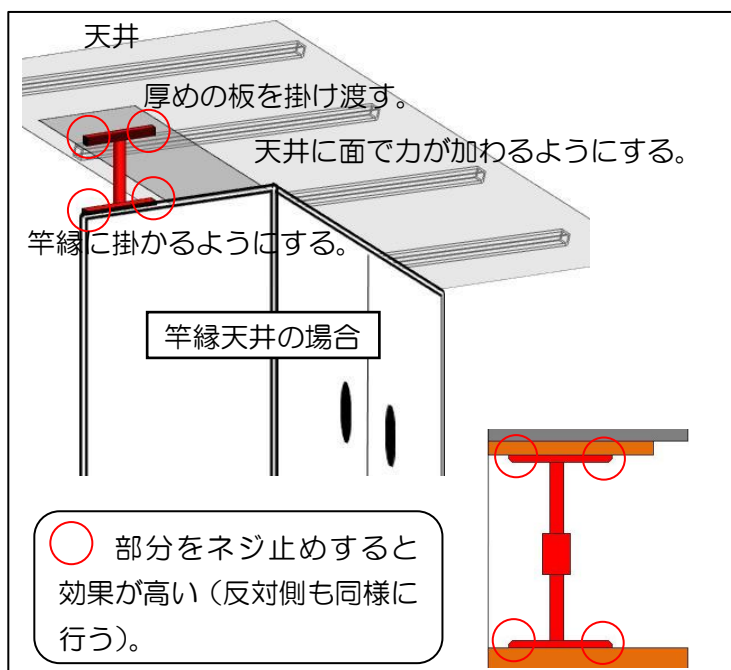
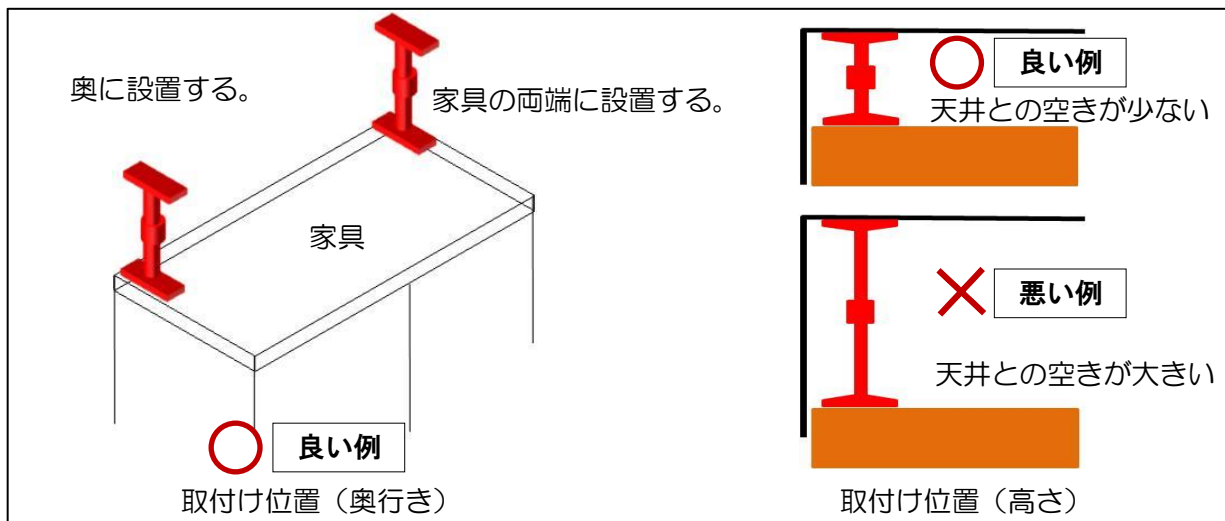
付け鴨居等が石膏ボードに接着剤で付けられている構造の場合は、**付け鴨居等を間柱等に木ネジで止めた上で、対策器具を取付けます。**

間柱等に対して、付け鴨居をネジで固定する。

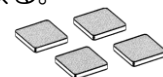


## ● ポール式器具・ストッパー式器具の取付け方法

壁や柱にネジ止めできない場合、天井との間にポールを突っ張って、固定する方法などがあります。



ポール式を使用する場合は、ストッパー式やマット式と併用し、家具の上下に対策を取る。

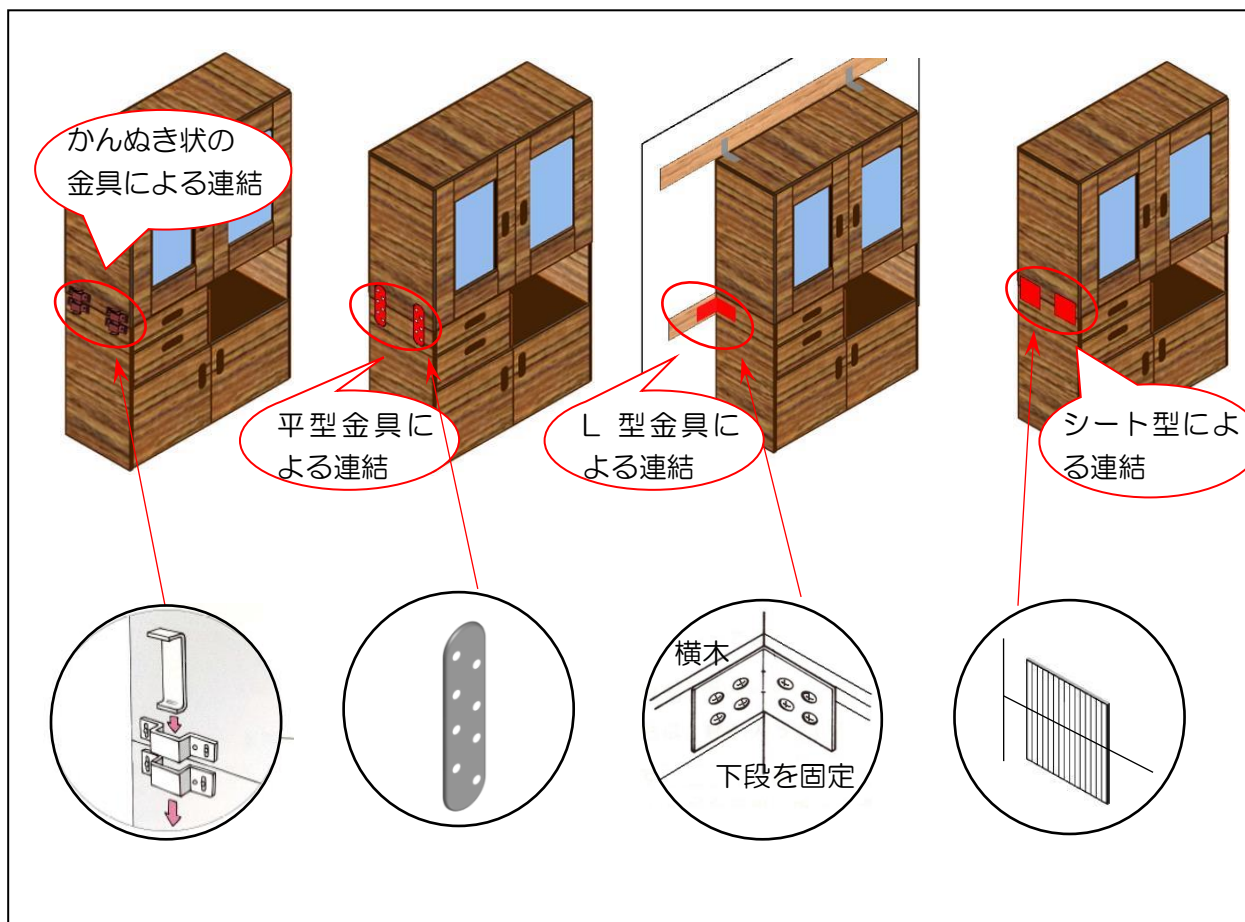


### Point

- ポール式器具は、家具の両側の側板部の壁側奥に設置します。
  - ポール式器具はできるだけ奥に取付けます。
  - ポール式器具を取付ける時は天井に十分な強度（マンションのコンクリート天井など）があることを確認します。
  - 天井に強度がない場合には、天井側に家具の幅以上の板で補強し、更にポール式と当て板をネジで固定すると効果が高くなります。
  - ポール式器具は奥行きのない家具、天井との間隔が大きい場合には不向きです。
  - ストッパー式器具は家具の端から端まで敷きます。
- ※ ストッパー式やマット式の単独使用は、大きな家具の場合是一般的に適しません。



## ● 連結金具の取付け



二段重ねの家具類は、**上下を平型金具等で連結**して一体化したうえで、家具の固定を行います。連結をしない場合は、上段、下段それぞれを横木等に固定します。

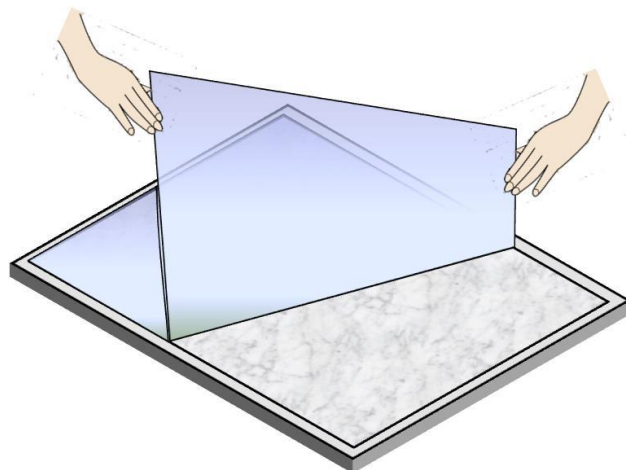
## ● ガラス飛散防止フィルムの貼り付け

ガラスの破損や収納物の飛び出しを防止するためには、ガラス飛散防止フィルムの貼付が効果的です。

**ガラス戸の両面にはることにより飛散防止効果が高くなります。**

片面に貼る場合は、外側のガラス面に貼って下さい。

霧吹きなどで、ガラスとフィルムに十分な水を吹きかけて貼付します。



## 令和6年度東京消防庁火災予防標語

# 『目で確認 声出し確認 火の用心』

作者 いわさき 岩崎 くるみ 公瑠美さん（清瀬市在学）

お問い合わせは最寄りの消防署まで！

深川消防署	03-3642-0119
有明分署	03-3529-0119
永代出張所	03-3630-0119
枝川出張所	03-3647-0119
豊洲出張所	03-3531-0119
森下出張所	03-3631-0119